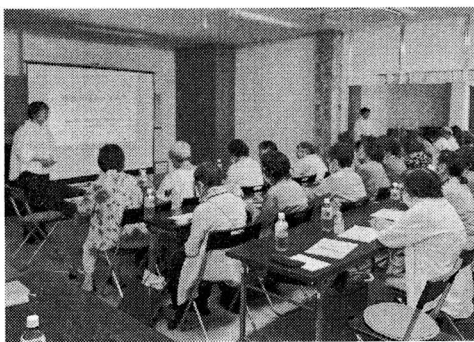


どのような分野からも発生



令和6年9月18日13時より、大阪塚本のレンタールーム・スマイルにて、京都大学工学部都市環境工学専攻准教授、島田洋子先生をお招きして「環境の汚染とリスク」をテーマとして講演会を開催しました。

島田先生は、環境汚染と言っても水質汚染・大気汚染・土壌汚染・廃棄物問題・地球温暖化などを含めて「環境汚染」と言い、私たちを取り巻く生活の営みにより、地球環境に及ぼす影響、ひいては人間はもちろん、動物植物におけるリスクを話していただきました。

全ての汚染には、排出源があり、それにより環境中に汚染物質の拡散・移行・蓄積により起こり、その影響が様々なリスク（悪影響）に繋がる。

私たちの身の回り品（飲食物・衣服・ノート・洗剤）など全て化学物質であり、世界で10万種、日本で5万種流通しているとの事です。
※元々自然に存在する化学物質（木材のセルロースなど、鉱物のアルミニウム・鉄・石油）など物理や化学の発見により、作りだされたもの。
※人間が意図せずできてしまった化学物質（人工化学物質）であるが、後で人間や生物にとり毒であることがわかり、環境を破壊することが分かった化学物質がある。例えば（油污れを落としたい）：洗剤・食べ物を腐りにくく：保存料・害虫から農作物を守りたい：農薬・殺虫剤など）年々、これらの環境汚染による健康リスクは、1950年代から深刻さが増している。
※「リスク」とは、人間の生命の安全や健康、資産や環境に危険や障害など、のぞましくない事象を発生させる確率（可能性）ないし損害損失のことをさす。
※「リスクをもたらし要因」リスクファクターとして、自然災害・薬害・感染症・環境リスクなど

どのような分野であれリスクは伴います。リスクゼロ・100%はあり得ないとのこと。
※「リスクの表現」※リスクの種類※リスクの計量などがある。
様々な方向から見ることにより、リスクが計量され環境基準などが出される、重要な分野であることがわかりました。
環境汚染の現状と課題として、日本国内で高度な処理技術により改善、環境基準、排出規制により常に監視、測定、災害事故による汚染汚染のリスクなどレベルが高いことも学びました。
国際的問題として（PFAS・マイクロプラスチックなど）やアジアメキシコなどの深刻な大気汚染・海洋汚染などがある。これらは、どの国とも話し合いが可能です。ここから平和へのきっかけができるのではと、島田洋子先生は締めくくられました。
私も対話から平和への道筋が開かれると思えます。主義主張ではなく、これからの環境リスクを考えると、戦争の為に時間をとお金を無駄に使うのではなく、地球市民として地球を守る為に英知とお金をと願うものです。